

2023 年度
(令和 5 年度)
学校関係者評価委員会報告書



学校法人トヨタ東京整備学園

専門
学校

トヨタ東京自動車大学校

Toyota Technical College Tokyo

学校関係者評価委員会報告書

1. 開催日 2024年（令和6年）7月24日（水）
2. 時間 13時30分～15時30分
3. 場所 専門学校トヨタ東京自動車大学校 1号館 123教室
4. 出席者 学校関係者評価委員：小島満、中原隆雄、林田英樹、小林祐、佐藤博之、愛甲彰人
事務局：永田透、若林良弘、太田靖也、石水渡、藤川龍彦、今野康裕、江頭裕司
欠席者 学校関係者評価委員：矢部寛明

学校関係者評価委員6名が参加し、過半数以上出席しているため委員会は成立

5. 概要

1) 開会挨拶：永田

2) 資料確認

- ・自己評価報告書
- ・学校関係者評価委員の評価書（A3）

3) 自己評価報告書の基準1～基準10までの説明

4) 各委員による評価結果

【当校の自己点検評価結果に対する委員評価】

出席委員から、すべての項目に対して良の判定をして頂いた

5) 学校関係者評価

【実施方法】

学校側より令和5年度の自己評価について、自己評価報告書を使用して、基準1～10まで1項目ずつ達成状況、課題、改善事項等について報告し、各々の項目について評価委員よりご意見をいただいた。なお、自己評価報告書の説明を事前に実施し、内容の理解度促進を図った。

1 学校の理念、教育目標

中長期計画の進捗状況説明⇒5か年計画の4年目が終了

2 本年度の重点目標と達成計画

I 募集活動：学生募集

- ① トヨタならではの取り組み【オープンシティや上級教育等】で差別化アピール
- ② 「東京校OC+地方販売店見学会」を柱にクルマの魅力の体験化推進
- ③ 7月A0地方入試化と11月A0追加で更なる早期囲い込み
- ④ OC充実、ご家族の不安（学費など）個別フォローで応募率60%達成
- ⑤ 認定日本語学校・実績校を中心に国際整備科学生の効率的獲得
- ⑥ 発信数増とWeb広告・GDN効果的運用で資料請求・OC吸引強化

Ⅱ・Ⅲ教育・環境 : 教育内容・学習環境

- ① 資格見直しカリキュラムの構成内容検討 TEAM-GP との融合
- ② 上級課程見直しによる授業内容変更および電子教科書の作成
- ③ セールス科、ボデークラフト科の教員育成計画の策定
- ④ 上級課程での PC・タブレットの授業展開と検証
- ⑤ 上級進学率 70%を安定させるために上級科の魅力発信の強化
- ⑥ 国際整備科の増員を見据えた体制構築の立案

Ⅳ 学校経営 : 採用・育成、経営、施設計画

- ① 外的変動による支出増加の対応に向けた学費等の見直し
- ② 施設・設備老朽化対応として1号館リノベーション計画推進
- ③ 学校創立 70 周年記念行事の立案・実施
- ④ 新会計システム、ワークフローによる業務の DX 標準化を推進し効率化
- ⑤ 地域支援の強化と新規相互協力推進による地域密着度の更なる向上

《基準 1 教育理念・目的・育成人材像》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

教育理念・目的・育成人材像等、全てが明確であり、将来的にも業界の中心となる卒業生を育成する学校に相応しいものとなっている。これらは、校長室、職員室をはじめ各教室へも掲示し、意識の統一化を図っている。また HP にて公表している。各科の人材育成目標は、教室に掲示し、周知徹底に務めている。

トヨタ自動車と連携し、オンライン教育制度 TEAM-GP を取り入れ、トヨタ販売店との連携でインターンシップや実務見学、また、採用の人材要件を勘案した教育課程編成を行っている。

従来の自動車技術に加えて、新たな環境対応車両等が今後の自動車の主流になると考えられる現在、自動車整備専門学校で教育すべき内容も電気・電子・通信等の要素が重要性を増す等、これまでに比べて非常に多様化し、これらに対応することが課題である。

② 今後の改善方法

自動車社会のニーズを十分に把握し、スマートモビリティ科・トヨタセールスエンジニア科・国際整備科を設置し、業界ニーズに合わせた職業実践教育に取り組むと共に、各科の人材育成目標に沿った教育課程の編成を行っていききたい。

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

【1-2-1】学校関係者評価委員会以外で保護者や就職先に意見を聞く機会はないのか

【1-2-2】人間性教育に力を入れてる具体例は

【1-3-1】中長期計画の達成状況や課題・改善の必要はないのか

③ 学校側の対応

【1-2-1】保護者には、オープンキャンパスや保護者説明会で意見吸い上げを行っている

就職先には、会社説明会時や個別来校・イベント訪問時等に担当者が個別に対応

【1-2-2】 ボランティア活動や各イベントへ積極的な参加を促し、車が好きで逞しい人材育成を実施

【1-3-1】 5年計画の4年目だが、1号館リノベーション以外はほぼ目標達成が可能

《基準2 学校運営》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

学校運営については、「基本理念」にあるとおり、自動車技術教育の先進校として人材育成活動を通じて社会に貢献することを基本におき、運営している。自動車技術のみならず、コンプライアンス精神をはじめ、環境配慮に至るまで社会が求める学校運営の理想の姿を実践している。

設置法人においては、トヨタグループ各社より、理事、監事及び評議員が参画し、企業の視点からの意見を伺いながら運営している。

人事給与については、毎年制度見直しを図り、時代に応じた運用をしている。なお、2020年度に導入した人事給与システムについて、校内にて有効に活用されている。

② 今後の改善方法

今後の学校教育は、カーボンニュートラルに向けた環境教育及びCASEに対応する電子制御装置の整備技術など、自動車業界の変化に伴う内容へと進めて行く。

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

【2-3-1】 職員の一定数を外部から中途採用するべきとあるが、どうやって採用につなげるのか

【2-5-1】 学生へのパソコン導入の検討中だが、いつまでに実施し、他のDX計画はあるのか

【今後の改善方策】 自動車業界の変化に伴う内容を教えていく推進計画はあるのか

② 学校側の対応

【2-3-1】 初任給の見直しや教職員の魅力を発信できるリーフレットを作成

【2-5-1】 上級生への展開は昨年度で完了。DX計画として校内全館のwi-fi化を計画しており

1・2年生にもタブレットなどを使用した授業を計画中で、来年から稼働予定。

【今後の改善方策】 スマートモビリティ科の基礎内容を整備科にも展開し新技術取得に役立てる

《基準3 教育活動》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

『技術を磨け、そして人間性も』のスローガンの下、各科の人材育成目標を掲げ、科毎に社会が求める人材の育成にあたっている。

本校は常勤理事に加え、学生が卒業後の主な就職先(トヨタ系企業)より、理事及び評議員が選出されており、人材ニーズの方向性は明確に把握できている。

国家試験合格への取り組みにも力を入れており、2024年3月に卒業した学生の国家試験の合格率は、1級小型、2級ガソリン、2級ジーゼル、車体整備士の全てにおいて100%となっている。

教育課程に関しては、毎年授業担当が、授業内容の振り返りを行い、次年度への改善提案を、上げている。また、教育課程編成委員会の委員より提案された内容を教育課程に取り込み、より実践的な実習を行っている。

また教育方法については、従来のやり方に固執することなく、様々な教育環境の変化に応じて柔軟性を持って見直しを実施している。

成績評価基準は、学則ならびに学則細則に規定し学科点、実技点、平常点を決め、その総合計点で成績評価を行っている。これらは、入学後のガイダンスで学生へ周知すると共に HP でも公表している。

トヨタ自動車との連携により、最新技術の研修を実施。これを授業へ反映し最新技術を学生へ教育している。

② 今後の改善方法

過去最大学生数の国家資格 1 級 100%合格に向けた課題・改善

- ・ 範囲を絞った内容で過去問題実施の改善継続
- ・ 口述試験の回答範囲の見直し実績の改善継続
- ・ 留学生に対応した回答方法の改善継続

コロナ禍以前のイベントを復活企画したが、計画通り進まない企画があり、今後の見直しが必要。欧州研修、学園祭、名古屋研修、スマートモビリティ科の淡路島でのリチウム電池研修は予定通り実施出来た。トヨタ 3 校で協力して実施することが出来る研修旅行などの検討。

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

【3-1-2】スマートモビリティ科が学生フォーミュラから撤退したことで追加された授業はあるのか

【3-2-1】セールスエンジニア科には保険対応や新しい商品知識を学べるチャンスはあるのか

国際整備科での会話能力高める取り組みはあるのか

また、他の学校の留学生との差別化をはかれるプログラムはあるのか

【3-2-2】新技術を企業から展開してもらった授業は新規取り組みなのか

【3-2-4】公開授業は誰に対して実施・評価しているのか

【3-3-1】序列が下位の学生への対応はどうしているのか

【3-5-1】職員の国家一級整備士資格取得は何名中 60 名以上なのか

【3-5-3】教育部業務分担表と授業担当者は誰が決めているのか

【今後の改善方法】過去最大数の国家 1 級受験とあるが何名なのか

② 学校側の対応

【3-1-2】 オーバーフローしていた授業内容を精査し、モノづくりのカリキュラムを残しつつ、新技術の習得・年間を通しての研究成果の発信などにあてる

【3-2-1】 セールス科ではコンプライアンス授業で事故対応や警察対応を含めた知識も取得する

また、トヨタセーフティセンス(トヨタの安全装置)の知識や給電・充電の知識を取得し、モビリティ社会で活躍できる人材育成を目指す

国際整備科では、会話能力を高めるためにディクテーションを試験に導入し、聴き取り能力を高めている。また、トヨタの技術を身に付けるために 3 年間みっちり実習する事で、留学生のリーダーになれる人材育成を目指している

- 【3-2-2】 新規ではなく定期的実施しているが、内容は最新機構についての講習を実施している
- 【3-2-4】 幹部職員に対して実施し、幹部職員が評価を行いフィードバックしている
- 【3-3-1】 序列下位でもカリキュラムをすべてクリアしているので現場で活躍できる最低限の知識・技術を身に付けている。足りない部分は補講や空き時間をつかいレベルアップをしている
- 【3-5-1】 専任教員 78 名中 69 名が取得済み
- 【3-5-3】 教育部長および各課長が分担表と授業担当を決定
- 【今後の改善方法】 国家 1 級受験学生が 134 名となり過去最大人数(2019 年 117 名が過去最大)

《基準 4 学修成果》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

就職は、校内に於いて説明会の実施、会社訪問、就職試験と関連企業との連携しながら、関連業界へ正社員として 100% の就職を教育成果として実績を残している。

資格取得は専門学校に求められる最も重要な要素のひとつと位置付けて、常に受験者全員合格を目指して取り組み、毎年登録試験後に問題の分析を行い、その対策を着実に行った結果として現れたもので、毎年ほぼ 100% の合格率を修めている。

各科で資格取得に向け、対策授業を行い教科書改訂等に伴う教育課程の変更も毎年検討し、成果として残している。

卒業生が、全国技術コンクールへ出場した際は校内にて紹介している。

就職活動の早期化に対して、教育課程を見直し、一般教養等キャリア教育の時期を見直すと共に、企業説明会、訪問等の時期も見直している。就職率は 100% であるが、第一希望内定率向上に向けて更に努力していきたい。(第 1 希望内定率 92.4%)

② 今後の改善方法

第 1 希望内定率をより高めるために留学生の不合格対策を検討し
限りなく 100% を目指す

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

【4-3-1】 アンケート等の実施はしているのか

③ 学校側の対応

【4-3-1】 卒業後も入社 3 年目までの卒業生にアンケート実施

《基準 5 学生支援》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

退学率低減に向けては、入学前教育により基礎学力を向上させ問題のある学生に対しては、担任、科目担当、保護者と連携し学習、生活指導と幅広く教育活動に当たっている。退学率低減を課題と捉え、今後もより一層の努力をして更に退学率低減に努めたい。

学生相談に関しては、担任による面談、また相談室を開設し外部相談員による面談も行われている。また、学生が安心して満足のいく快適な学園生活を送れるような配慮・支援については常に心掛け、更にクルマ好きになれるよう「車が好きで、逞しい人材を育成する」諸活動を積極的に実施している。ハラスメントへの対応としては、対応規則を設け、窓口を設置した上で学生・職員に周知し、相談しやすい体制を確立した。

留学生に対しては、生活指導からアルバイトに至るまで実施し、特にアルバイトは担任よりアルバイト先に連絡を取り、就労時間等の確認を実施している。

保護者との連携は、入学式、保護者説明会、各学期の書簡と十分に取れている。また、出欠管理、試験等で問題があれば、その都度連絡をしている。

国際整備科の設立により、留学生への支援内容や就職支援の幅も広がった。卒業生を輩出したことで、3年間のカリキュラムの確立と今後の改善をすすめるデータ集めが出来た。

同窓会支部活動が出来なかった。

② 今後の改善方法

退学率低減に向けては、入学前教育の効果を見る仕組みを作り、入学前教育内容の改善を図りたい。学生の様々な悩みに早期に気付き対応 指導する教員の指導力を更に強化する事により、退学率低減を図りたい。

キャンパスハラスメント防止ガイドラインの展開

学生ポータルサイトの活用

留学生受け入れ増加に対応した教育体制の見直し

- ・ 教室体制の検討
- ・ 担任制度の検討

支援として同窓会支部を県単位ではなく、販売店グループ会社を中心に設立を検討。(岩手県・東京・神奈川・山梨)

支部設立を通し、5年毎に実施している同窓会総会への参加の呼び掛けすることで、卒業生と連携し同窓会組織や資格取得に関する支援、自動車業界の現状に関する情報交換等を行っていききたい。

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

【5-2-1】 退学理由は何が多いか

【5-3-1】 闇バイト・違法薬物・LGPT に対する教育、注意喚起などの教育はどうしているか

【5-3-2】 留学担当者は専任なのか

【5-4-1】 未納学生の対応はどうしているのか

【5-4-3】 感染症とは何をさせているのか

【5-4-4】 課外活動とはなんですか

【5-5-1】 保護者との連携体制はあるのか

【総括と課題】 同窓会支部活動が出来なかったのはなぜか

② 学校側の対応

【5-2-1】 経済的な困窮、学力不足、進路変更が多いです

学力不足や進路変更の学生は、コロナ禍で高校時代を過ごしてきた事が、少なからず影響を与えている状況は続いている。

【5-3-1】 コンプライアンス教育を今年4月から実施し4年間で100時間実施予定です。

【5-3-2】 国際科1年生には担任が付き、学校全体では兼任の職員が対応

【5-4-1】 各課の課長が中心に納入計画の作成や保護者対応を実施

【5-4-3】 インフルエンザと新型コロナを中心にすべての感染症

【5-4-4】 近隣のイベント、自動車系イベントなど

【5-5-1】 手紙や学生を通じた連絡でグーグルフォームなどの利用

【総括と課題】 コロナ禍での見送りがメインだが、支部会活動の見直しも検討課題

《基準6 教育環境》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

教育環境は、専門学校としては十分な環境と言える。また、施設・設備は、中長期的な計画に基づいて、教育上の必要性に十分対応できるよう順次整備を進めている。

学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備している。

1級自動車科のインターンシップは、国土交通省規定通りに実施し、他の科でも取り組んでいる。

防災に関しては、東日本大震災の経験を踏まえ、防災マニュアルを作成し、毎年見直しを実施している。避難訓練に関しては、新入生が入学して日が浅いうちに実施している。

また、寮生に関しては、寮からの避難訓練だけでなく、防災備蓄倉庫の紹介、使用方法までを訓練の一部として実施している。

② 今後の改善方法

現在推進している中長期計画の中に、教育施設・設備の充実を盛り込んで、更なる教育環境の整備を目指している。

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

【6-2-1】 上級課程とは全ての上級科が対象か

【6-3-1】 連絡網や安否確認をどうしているのか

【6-3-2】 KYT 実施の頻度はどのくらいか

【6-3-2】 危険物の保管・管理のマニュアルはあるのか

② 学校側の対応

【6-2-1】 全ての上級課程が対象

【6-3-1】 学生ポータルサイトやグーグルクラスルームで実施

【6-3-2】 作業前に毎回実施

【6-3-2】 化学物質管理者マニュアルがあり、日常点検も実施

《基準7 学生の募集と受入れ》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

学校運営に直接関わる学生募集活動は、少子化や業界環境等の変化で定員を満たすのが厳しい状況にあるが、教職員一丸となつての取組みやトヨタグループ各社の協力も得ながら、日々努力している。

また、国土交通省でも「自動車整備要員の人材確保・育成に関する対策」を検討しており、昨年引き続き運輸支局長等による高校訪問で、自動車整備の仕事に関する説明を実施している。

本校での募集活動では、学校評価の一つとなる就職、資格取得等の実績を正確に公表し、入学選考も適正かつ公平な基準に基づき実施している。

今後自動車業界に不可欠な専門技術を修得した優秀なエンジニアを継続的に輩出するために、サービスエンジニアの魅力、自動車の魅力を十分に理解されるような広報活動を重視した学生募集活動を展開していきたい。

② 今後の改善方法

募集につながる当校認知の拡大のため、オンライン WEB 系 PR 活動やオープンキャンパス、各種イベントへの認知活動を強化する。

自動車エンジニアの待遇改善が進んでいる。この変化を高校生などに積極展開し、自動車業界に興味を持つ生徒を増やしたい。

トヨタ自動車、トヨタグループ販売店との連携をさらに強め、自動車業界の魅力を若者により強く伝えたい。

高校生に魅力ある大学卒業資格（学士）を授業内で取得できる新学科を設立し魅力を高めたい。

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

【7-1-1】 保護者向けリーフレットの対象職員範囲はどこまでか

【7-1-2】 オンライン面接は今後も継続するのか

【7-3-1】 ベンチマークする学校はどこなのか

② 学校側の対応

【7-1-1】 高等学校の教員がメイン対象

【7-1-2】 面着での試験がメインになるが、事情によりオンライン面接の実施も可能とする

【7-3-1】 自動車整備系の学校などだけではなく、大学も参考にしてい

《基準8 財務》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

少子化・大学全入時代到来等の影響による応募者減少傾向にあるが、本校はトヨタ自動車(株)直営校としてのメリットを活かし、乗じて行きたい。

学校収入関係の変化により、消費税対応を再確認。関係各所と相談・確認の上、ルールに沿った対応を実施。

② 今後の改善方法

募集環境は今後も国内は厳しい状況が続くと考えられる中、留学生の回復にも期待し、新中長期計画に沿って対応して行く。

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

特に無し

② 学校側の対応

特に無し

《基準9 法令等の遵守》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

コンプライアンス（法令等の遵守）においては、トップ方針に基づき、真摯に取り組んでいる。

法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。

個人情報に関しては、その保護のためのハード面、ソフト面において対策が取られており、

自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めており、2014年度より公表している。

学校関係者評価においても実施、公表しており、今後も課題と指摘された内容を学校運営に反映および制度、運用面等の改善を実施していきたい。

教育情報はHP等により、情報公開している。

② 今後の改善方法

法令改定等の入手の確実性を高めたい。

(2) 学校関係者評価結果

① 評価委員会からのご意見・ご要望

特に無し

② 学校側の対応

特に無し

《基準10 社会貢献・地域貢献》

(1) 自己評価結果

① 総括と課題

教育方針の一つに社会貢献活動を盛り込んで実施している。また、社会貢献を通じた人材育成を重要な学生教育手法の一つと考えて、積極的に取り組み人材育成に寄与している。

地域社会の一員としてだけでなく広く官公庁、企業、団体からの協力要請に対して、できる限り貢

献できるよう対応している。

- ② 今後の改善方法
特に無し

(2) 学校関係者評価結果

- ① 評価委員会からのご意見・ご要望
 - 【10-1-2】 現在も実施しているのか
 - 【10-2-1】 ボランティア活動は誰が対象なのか
- ② 学校側の対応
 - 【10-1-2】 今後も依頼ごとに実施可能か判断し対応していく
 - 【10-2-1】 学生がメインだが、教職員も参加可能

6) その他委員からの意見

佐藤委員：整備に対する相性があると思いますが、フォローして卒業できるように苦労されていらっしゃると思います。好きな学生もいればそうでない学生がいる中で、卒業して販売店につなげるのは大変なんだろうとは思いますが、学生の様子はどうですか？

担任が大変なのが保護者との電話連絡です。ここ1~2年特に多くなっています。内部進学についての相談も多く、保護者見学会以外にもアプローチがあり、そのコミュニケーションをとることが多いです。

また、夏休み明けから全館Wi-Fi化されます。それによるタブレット等の課題の与え方等も工夫できるようになり、タブレットを使って勉強してきた世代の学生に対するフォローにつながることを期待しています。

中原委員：販売店では、整備は好きでは無いとはっきり言う社員が普通にいる。逆にそういう社員は、整備を仕事と割り切ってやってるので、それはそれで良いのではないかと思う。割り切った人達は、扱いが楽ですが、逆に見切りが早いです。他に良い条件の仕事があれば退職してしまう所が難しいです。

愛甲委員：地域清掃、避難訓練等お手伝い頂いているので大変助かっています。女子や留学生が増えていると思いますが留学生などが入学してくれるのは良いことかと思えます。

林田委員：弊社には奨学金制度があるのですが、制度が悪いのか利用者があまりいません。

当校の日本学生支援機構の利用者は4割です。御社の場合は2年課程のみだと思いますが、その会社に就職しなければならないというハードルが高いので、専門学校に入学する前に入社試験をやることになり、ハードルは高いです。神奈川は4年課程にも対応して、トータル300万ほどの奨学金を出しています。

中原委員：提案ですが、エンジニアの魅力を保護者へ伝えるために、バス等を使って保護者と学生が販売店見学を実施してはどうでしょうか。他の専門学校からの依頼があり、整備の現場、処遇改善等を保護者に

説明して伝える事を手伝っています。今の現場を保護者に見てもらおう事で、協力できればいいかなと思っています。

販売店見学会は実施しており、販売店に集まって工場等を見学していますが、スクールバス等といった形は無いです。都内の他校が行うのは、都内の設備を見せたくないからやっているというのものもあるかと思います。一度どれぐらい集まるかチャレンジも検討していきたいと思います。

中原委員：2級の内容が来年の4月から変わりますが、3校連携で新しい内容を検討しているのでしょうか？

カリキュラムは去年から3校(東京校・名古屋校・神戸校)で協力して作成する方向で動いています。教科書が出るのが9月末なので、これから詳細を詰めていく段階です。

小林委員：留学生の件で、過去は学校を卒業して留学ビザが3~5年が当たり前でしたが、現在は1年ビザになっています。外国籍の人は稼ぎにきており、整備の仕事であれば長いビザが取れる等で目指している事もあり、この状況だと留学生が集まらなくなる可能性が出てきてしまう事が懸念される。入社するタイミングでビザの発行が、3~5年出るようになれば、販売店としては非常に助かります。整備主任者を取れば3年という話がありますが、現状ではそんなに多くの整備主任者を出すことは、コンプライアンス的にも難しい状況です。

JAMCAからも問題提議がされており、皆様に現状把握のご協力を頂くことになると思います。その際は、よろしくお願いします。

6. 総括

皆様から提案のあったDX化についても学生の理解度を向上させるアイテムとして導入が進んでおり、この夏以降全館でwi-fi化されます。日大の不祥事からの私学法改正、トヨタの3つの学校の統合等を来年度に控えております。学校も、販売店も、トヨタ自動車も自動車業界を支えられるよう動いていきたいと考えておりますので、何か気になることがありましたらご連絡下さい。

以上